《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	こころと行動				
担当者氏名	高田 晃治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ A11-93 (知識・技能)人間生活に関わる基本的な知識と社会常識を修得している。				

《授業の概要》

人間の行動の背景には様々なこころの動きがある。モノがあふれる現代、人々の関心は内面へと向い心理学に対する関心もますます高まっている。本講義では、日常的なトピックスからこころの深層の世界までさまざまな題材を取り上げながら、心理学についての理解を深める。

《テキスト》

特に指定しない。適宜プリント等を配布する。

《参考図書》

講義中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①心理学の基礎的・一般的な知識を習得し、説明することができる。
- ②他者の言動や心理を理解するための視点を持つ。
- ③自分自身のこころの動きや行動、発達過程を内省する意識を持つ。

《授業時間外学修》

事前学修：授業概要および授業中の予告等をもとに、関連する項目を予習すること（20分程度）。
事後学修：授業で配布されたプリントならびに授業で紹介された文献等をもとに発展的に自学自習すること（20分程度）。

《成績評価の方法》

1. 試験（70%）
 2. 講義中の提出物（30%）
- 《試験のフィードバックの方法》

期末試験後、解説を行う（試験60分、解説30分）。

《備考》

感染対策をとり対面授業を行う予定だが、授業実施方法は感染状況により変更することがある。実務家教員による授業。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション 心理学とは？	「心理学」という学問領域について概説する。授業に関するオリエンテーションを行う。
2	感情・情動	感情や情動が生起するプロセスや機能等について学修する。
3	感覚・知覚	感覚・知覚の種類や過程等について学修する。
4	記憶の心理学	記憶の種類やプロセスについて学修する。
5	学習心理学	連合理論、条件づけ、認知理論、行動の学習や消去のプロセスについてなど概説する。
6	こころの発達（1）	乳児期～学童期の心身の発達について学修する。
7	こころの発達（2）	青年期～高齢期の心身の発達について学修する。
8	対人認知と印象形成	対人認知の過程や諸要因について学修する。
9	集団と組織の理解	集団や組織が個人の認知・行動に及ぼす影響等について学修する。
10	欲求・動機づけ	欲求や動機づけの種類や関連要因について学修する。
11	パーソナリティ・性格	パーソナリティに関する諸理論やパーソナリティ検査等について学修する。
12	知能と創造性	知能に関する理論や知能検査、創造性や創造的思考について学修する。
13	ストレスと適応	ストレスが心身に与える影響やストレスへの対処、個人の環境に対する適応に関する諸問題について学修する。
14	心理学的支援と心理臨床	今日の社会における心理学的支援の意義や関係する専門職、臨床心理行為の特色について学修する。
15	まとめ	「心理学」について授業を通じて学んだことを振り返り、確認する。

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	人間関係論				
担当者氏名	高田 晃治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ A11-111 (知識・技能)食に関する基本的な知識および幅広い応用力やグローバルかつ地域に根差した視点を身につけている。 ○ A12-120 (思考力・判断力・表現力)社会人としての教養とマナーを身につけ、専門性を活用することができる。 ◎ A13-126 (主体性・多様性・協調性)自分の役割を自覚し、協調しながら責任を果たすことができる。			

《授業の概要》

人間関係は我々の生活の基本であり、人間が人間として生きていくために不可欠な要素である。本講義では、日常生活で経験する様々な人間関係を取り上げながら、これまでの研究による知見を紹介し、心理学的観点からその意味を検討していく。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

講義中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①人間関係で生じる諸現象を心理学の概念を用いて説明できる。
- ②人間関係の発達過程を理解している。

《授業時間外学修》

事前学修：シラバスや授業で予告された内容について予習すること（20分程度）。
 事後学修：資料ならびに授業で紹介された文献等をもとに発展的に自学自習すること（20分程度）。

《成績評価の方法》

1. レポート（70%）
2. 授業後の課題（30%）

《課題へのフィードバックの方法》

課題ならびにレポートについて学習ポートフォリオを通じてフィードバックする。

《備考》

感染対策をとり対面授業を行う予定だが、授業実施方法は感染状況により変更することがある。実務家教員による授業。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション：人間関係論とは？	「人間関係論」という学問領域について概説する。授業に関するオリエンテーションを行う。
2	自己と他者	「自己」と関連する諸概念、二者関係における対人認知や印象形成の過程と諸要因について学ぶ。
3	人間関係の発達(1)：乳児期	乳児期における人間関係、母子関係とその発達過程について学ぶ。
4	人間関係の発達(2)：幼児期～学童期	幼児期ならびに学童期における人間関係の発達過程について学ぶ。
5	人間関係の発達(3)：青年期・成人期・高齢期	青年期、成人期、高齢期（老年期）における人間関係の発達過程について学ぶ。
6	恋愛関係の心理学	恋愛関係および恋愛行動にかかわる理論や要因について学修する。
7	家族関係の心理学(1)	家族関係について心理学的観点から概説する。
8	家族関係の心理学(2)	現代社会における家族を取り巻く環境、困難や支援のあり方について学ぶ。
9	地域社会とコミュニティ(1)	地域社会、コミュニティ、ソーシャルサポートと関連する諸概念について学ぶ。
10	地域社会とコミュニティ(2)	近年のコミュニティの現状、問題点などを検討する。
11	地域社会とコミュニティ(3)	コミュニティにおける支援活動、自助グループ等について学ぶ。
12	集団力学	集団が個人および集団相互に与える心理学的影響について学ぶ。
13	組織の心理学	組織の持つ性質、問題点、リーダーシップの機能等について学ぶ。
14	仕事とストレスマネジメント	仕事をする上でのストレスへの対処やサポートのあり方、対人サービス業におけるストレスについて学ぶ。
15	「さよなら」の心理学	人間関係の終焉としての「別れ」「喪失」について考察する。

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	文章表現とコミュニケーション				
担当者氏名	金岡 敬子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ A12-120 (思考力・判断力・表現力) 社会人としての教養とマナーを身につけ、専門性を活用することができる。				

《授業の概要》

この授業は、文章の書き方をテーマに、書く技術を身につけるための授業である。学校ではレポートを、職場ではビジネス文書を書く機会が多いが、さまざまな文書表現の基本から応用まで、実際に書くことを通して学んでいく。

《テキスト》

西尾宣明編著「日本語表現法」樹村房

《参考図書》

公益財団法人 実務技能検定協会編「ビジネス文書技能検定」3級・2級・1級 早稲田教育出版

《授業の到達目標》

- ①正しい文章表現の習得。
- ②手紙文、ビジネス文書の形式を守って、文章を書くことができる。
- ③話し言葉、書き言葉の違いを理解して文章が書ける。
- ④語彙力を身につけて文章が書けるようになる。

《授業時間外学修》

「ビジネス文書技能検定」「秘書検定」にもチャレンジする姿勢を持って、総合力を養うため、毎週の課題があります。

【事前学修】課題を自宅学習する (60分)

【事後学修】「まとめノート」を作り復習する (30分)

《成績評価の方法》

1. 平常点 (受講態度・発表) 40%
2. 課題 (ルーブリック評価)・小テスト 30%
3. まとめ学期末テスト 30%

《フィードバック方法》

課題・小テストについての講評の時間を設けます。

《備考》

1. 授業実施方法は、感染状況により変更する場合がある。
2. 新聞・情報誌等で社会の出来事に関心を持つこと。
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	授業内容について 文章を書く技術とはなにか
2	文章表現の基本①	主語と述語の関係性 句読点について
3	文章表現の基本②	文末表現の統一 である調とですます調
4	文章表現の基本③	段落について 簡潔に書くための練習
5	文章表現の基本④	語彙力をつけるための技術 名文を声に出して読む
6	書くための知識①	敬語の知識 話し言葉と書き言葉
7	書くための知識②	レポートの書き方①
8	書くための知識③	レポートの書き方②
9	書くための知識④	ビジネス文書とは何か 社外文書、社内文書について
10	書くための技術①	ビジネス文書の作成 社外文書
11	書くための技術②	手紙文の作成 礼状を書いてみよう①
12	書くための技術③	封筒の表書き作成 礼状を書いてみよう②
13	文章の書き方まとめ①	わかりやすい文章とは
14	文章の書き方まとめ②	テーマ「文章を書くということ」 各自まとめをして、発表
15	総まとめ	総まとめ小テスト (学生、教員によるルーブリック評価)

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	日本事情 I				
担当者氏名	金岡 敬子				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ A11-93 (知識・技能)人間生活に関わる基本的な知識と社会常識を修得している。 ○ A11-94 (知識・技能)生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 ○ A12-100 (思考力・判断力・表現力)獲得したコミュニケーション技能やプレゼンテーション技能を活用して、伝えるべきことを適切に表現することができる。			

《授業の概要》

本学に入学した外国人留学生のための授業である。本学における専門的な授業の理解や単位の取得を効果的に進めるためには、日本語をマスターするだけでなく、日本の生活環境・習慣の違いを理解することが重要である。この授業は伝統文化から現代社会および、人間生活に関わる基本的な知識を修得する。

《テキスト》

テキスト：プリントを使用する。

《参考図書》

授業の中で紹介する。

《授業の到達目標》

- ①日本の文化と自国の文化の違いについて理解することができる。
- ②日本の生活環境・習慣について理解できる。
- ③講義の内容を理解し、適切な日本語で内容をまとめることができる。

《授業時間外学修》

事前学修：シラバスを読み学習内容を理解し、関連した資料を読む。(30分)
 事後学修：授業で配付された資料と内容について復習する。(20分)
 ※この授業は、コロナ禍により遠隔授業となった場合も対面授業と同等の学びの保証を行うものとする。

《成績評価の方法》

1. 平常点(授業態度・レポート等提出物)60%
 2. 授業への参加度(ルーブリック評価)20%
 3. 理解度小テスト20%
- <フィードバックの方法>
 提出課題や小テストについては解説の時間を設ける。

《備考》

- ・授業実施方法は、感染状況により変更する可能性がある。
 - ・積極的にアクティブラーニングに参加すること。
- 実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	授業ガイダンス	・授業の目的、内容、成績評価の方法など受講に関することについて解説 ・自己紹介、アンケートによる日本語・日本事情理解に関する事前確認
2	心構え	・授業の目的、内容、成績評価の方法など受講に関することについて解説 ・日常生活での「困りごと」の確認と対処法について
3	異文化間コミュニケーション①	・「外国人が日本人によく聞く質問」から、異文化間コミュニケーションについて ・状況に合わせた言葉遣いのロールプレイング
4	異文化間コミュニケーション②	・「外国人が日本人によく聞く質問」から、異文化間コミュニケーションについて ・状況に合わせたマナーについてのロールプレイング
5	こころのケア①	・「外国人が日本人によく聞く質問」から、異文化間コミュニケーションについて ・状況に合わせたマナーについてのロールプレイング
6	こころのケア②	・留学生のこころのケアについて解説 ・異文化理解と人間関係での「困りごと」についての対処法
7	日本の医療事情	・「病気になった時はどうすればいいか」ということから日本の医療事情を解説 ・病気に関する表現方法
8	日本の病院	・日本の病院の制度などについての解説 ・病名の理解とロールプレイング
9	日本のIT事情	・日本の情報化社会の理解と活用 ・コロナ禍における情報活用の変化についての理解
10	日本の伝統工芸	・日本の伝統工芸について解説 ・自国の伝統文化との比較による日本文化の理解
11	日本の伝統文化	・能・狂言・茶道などの日本の伝統文化について解説 ・「日本文化」についてプレゼンによる発表
12	日本の伝統食	・日本古来からの伝統食を解説 ・自国の伝統食との比較による日本の伝統食の理解
13	日本人の食生活①	・日本人の食生活を解説 ・食文化の違いによる食事のマナー
14	日本人の食生活②	・日本人の食生活を解説 ・プレゼンによる食のまとめ発表
15	まとめ	・受講した感想、日本事情についてのまとめ ・小テストによる理解度チェック

科目名	医学英語Ⅱ				
担当者氏名	尾田 三世、藤井 仁人、三島 清司				
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ A11-129 (知識・技能)臨床検査技師に必要な教養と、専門分野の知識を身につけている。 ◎ A12-132 (思考力・判断力・表現力)自らの意見を第三者に正確に伝えるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけている。			

《授業の概要》

臨床検査で用いられる試薬や機器の説明書は英語表記のものが多く。また、臨床検査分野で学術活動をする場合、国内のみならず国外の英語文献を読まなければならないことも多い。臨床検査分野のそれぞれの専門家による医学英語の読み方の基礎を学ぶ。

《テキスト》

各担当者が準備し、必要に応じ授業に使用する英文はポートフォリオで配布します。

《参考図書》

適宜紹介します。

《授業の到達目標》

- ①試薬などの説明書と英語文献を、辞書を用いて日本語に訳すことができる。
- ②英文の検査マニュアルを読んで検査することができる。
- ③英語文献の内容を理解し、研究の内容について簡潔に説明できる。

《授業時間外学修》

事前学修：事前に配布された資料を確認する。
 事後学修：講義の復習と課題

《成績評価の方法》

- ①課題・アクティブラーニング 70%
 - ②期末試験30%
- 《試験のフィードバック方法》
 試験60分・解説30分

《備考》

授業形態は感染状況により変更する可能性がある。
 期末試験で辞書持込不可。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	病理学に関する領域	病理組織細胞学検査分野に関する領域の臨床検査試薬・臨床検査マニュアル他を読む
2	病理学に関する領域	病理組織細胞学検査分野に関する領域の臨床検査試薬・臨床検査マニュアル他を読む
3	病理学に関する領域	病理組織細胞学検査分野に関する領域の臨床検査試薬・臨床検査マニュアル他を読む
4	微生物学に関する領域	微生物学検査分野に関する領域の臨床検査試薬・臨床検査マニュアル他を読む
5	微生物学に関する領域	微生物学検査分野に関する領域の臨床検査試薬・臨床検査マニュアル他を読む
6	微生物学に関する領域	微生物学検査分野に関する領域の臨床検査試薬・臨床検査マニュアル他を読む
7	血液学に関する領域	血液学検査分野に関する領域の臨床検査試薬・臨床検査マニュアル他を読む
8	血液学に関する領域	血液学検査分野に関する領域の臨床検査試薬・臨床検査マニュアル他を読む
9	血液学に関する領域	血液学検査分野に関する領域の臨床検査試薬・臨床検査マニュアル他を読む
10	生理学に関する領域	生理学検査分野に関する領域の臨床検査試薬・臨床検査マニュアル他を読む
11	生理学に関する領域	生理学検査分野に関する領域の臨床検査試薬・臨床検査マニュアル他を読む
12	生理学に関する領域	生理学検査分野に関する領域の臨床検査試薬・臨床検査マニュアル他を読む
13	生化学に関する領域	生化学検査分野に関する領域の臨床検査試薬・臨床検査マニュアル他を読む
14	生化学に関する領域	生化学検査分野に関する領域の臨床検査試薬・臨床検査マニュアル他を読む
15	生化学に関する領域	生化学検査分野に関する領域の臨床検査試薬・臨床検査マニュアル他を読む

《教養科目 科学的思考の基盤 一般教養》

科目名	理数応用				
担当者氏名	久保田 耕司、岡村 美和				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ A11-129 (知識・技能)臨床検査技師に必要な教養と、専門分野の知識を身につけている。 ◎ A12-131 (思考力・判断力・表現力)習得した知識・技能を用いて、問題解決に向けた創造的思考をすることができる。 ○ A12-132 (思考力・判断力・表現力)自らの意見を第三者に正確に伝えるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけている。 ○ A13-133 (主体性・多様性・協調性)多様性を理解したうえで、自分の役割を認識し、協力して問題解決ができる。			

《授業の概要》

基礎分野である「物理学、化学、生物学、統計学」を理解するために、高等学校教育までの内容で、医療系職種に必要な基礎知識を学ぶ。

《テキスト》

必要に応じて配布プリントがある。

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ① 医療人の基礎力として、理数系の考え方を身に付けている。
- ② 基礎専門科目や専門科目に応用ができる。
- ③ 濃度の計算を理解している。

《授業時間外学修》

- ① 高等学校で学習した物質質量(mol)について理解しておく
- ② 数学は計算機(電卓)が使えるようにしておくこと
 - ・事前学修:入学前課題の計算問題をする
 - ・事後学修:講義でした計算問題(プリント)をもう一度すること(30分程度)。

《成績評価の方法》

- ① 期末時に実施される定期試験(90%)
- ② 平常点(授業態度、10%)

《学生へのフィードバックの方法》

試験終了後に試験の内容に対して説明をする。 期末試験60分、解説30分

《備考》

実務家教員による授業
授業形態は感染状況により変更する場合がある

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	四則演算・平方根	計算の基本
2	関数と方程式	関数と方程式
3	指数	指数
4	対数	対数
5	最小二乗法と検量線	化学計算への応用
6	統計	統計学基礎
7	統計演習	統計学演習
8	まとめのテスト	まとめ試験と解説
9	化学①	単位の変換①
10	化学②	単位の変換②
11	化学③	濃度の計算①
12	化学④	濃度の計算②
13	化学⑤	濃度の計算③
14	化学⑥	試薬の作成法
15	化学まとめ	器具の取り扱い

《教養科目 一般教養 一般教養》

科目名	母と子の健康				
担当者氏名	井上 富美江				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		☐ A11-93 (知識・技能)人間生活に関わる基本的な知識と社会常識を修得している。 ☐ A11-94 (知識・技能)生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。			

《授業の概要》

一人の女性として、自分の身体の構造を知り、ライフステージ各期の身体の変化と起こりうるさまざまな疾患について学ぶ。また社会問題である性感染症について知り、正しい予防法と避妊法の知識を深めてもらう。

妊産婦・新生児から小児までの健康・疾患を知り、母子を取り巻く環境について学ぶ。

《授業の到達目標》

- ① 女性の身体構造とその機能を理解している。
- ② 避妊・性感染症予防に必要な知識を説明できる。
- ③ 女性のライフステージと健康障害について理解できる。
- ④ 妊娠・出産・小児の健康課題を知り、理解できる。

《成績評価の方法》

①平常点30% (授業態度10%・レポート20%)

②期末試験 (70%)

《試験のフィードバック方法》

期末試験終了後に解説する。(試験60分・解説30分)

《テキスト》

谷田恭枝 著「新版 女性と生命」東海大学出版部
 配布資料：テキストの補足資料
 映像資料：パワーポイント、DVD

《参考図書》

ラーシュ ハンベルイェル著「誕生の神秘」小学館
 木原 秀樹著「240動画でわかる赤ちゃんの発達地図」メディカ出版
 「ウィメンズ・メディカ」小学館
 深沢友紀著「産声のない天使たち」朝日新聞出版

《授業時間外学修》

・事前学修 (15分程度)：テキスト (配布資料) に目を通し、わからない語句があれば調べておく。
 ・事後学修 (15分程度)：テキスト・配布資料を読み、授業内容を復習する。

《備考》

感染対策を取り対面授業の予定だが、感染状況等により変更することがある。
 実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	OR・母子保健	講義の進め方の説明・母子保健の意義と歴史、現状など
2	女性の生理的特徴①	女性の身体の構造
3	女性の生理的特徴②	女性の身体の働き：性周期・月経の仕組み
4	女性のライフステージと関連疾患①	女性のライフステージ：思春期～
5	女性のライフステージと関連疾患②	成熟期：避妊法の種類と特徴 性感染症の種類と予防法
6	女性のライフステージと関連疾患③	成熟期：月経のトラブルと炎症、不妊症と妊娠中絶
7	女性のライフステージと関連疾患④	更年期：がん・更年期、子宮の疾患など
8	女性の関連疾患⑤ 妊産婦の健康上の問題①	乳がん／妊娠の成立
9	妊産婦の健康上の問題②	胎児の発育
10	妊産婦の健康上の問題③	妊娠期の異常
11	妊産婦の健康上の問題④	分娩期各期・分娩の3要素・産後の経過
12	妊産婦の健康上の問題⑤	分娩期・産褥期の異常
13	小児の成長と発達	小児 (新生児) の成長と発達、栄養 (離乳食)
14	小児の疾患・事故	小児期の疾患・感染症とその予防、事故と虐待
15	妊産婦の健康上の問題⑤	DVD (生命誕生・出産)

科目名	テ「エデュケーション論(生命倫理)				
担当者氏名	山根 民子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ A11-93 (知識・技能)人間生活に関わる基本的な知識と社会常識を修得している。 ○ A11-94 (知識・技能)生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 ○ A13-105 (主体性・多様性・協調性)高い教養を学修し、広い視野を持って、様々な人と関わり合いながら主体的に活動する力を身につけている。 ○ A13-106 (主体性・多様性・協調性)社会人として必要な自己管理能力、協調性、倫理観、規律性を身につけている。				

《授業の概要》

医療の進歩に伴い、生命をめぐる倫理的課題が山積している。本授業では、生命に携わる医療職者として基盤となる考え方を理解するとともに、自己の在りようを考察する。さらに、倫理的問題に対応するための基本となる知識・技術・態度を習得するために、事例やワークを通して学びを深める。

《授業の到達目標》

- ①医療職に必要な倫理原則や生命にかかわる倫理的課題を理解し、医療職者として求められる姿について考える。
- ②終末期医療の現状と課題を踏まえ、患者・家族の置かれている状況・特徴を理解することができる。
- ③自分自身の死生観について考え、表現することができる。

《成績評価の方法》

- ①期末試験 50%
 - ②課題レポート 30%
 - ③講義・ワークの受講態度 20%
- 《試験のフィードバック方法》
 期末試験終了後に解説する。試験60分・解説30分

《テキスト》

- ・児玉 聡「マンガで学ぶ生命倫理」(株)化学同人
- ・配布資料：必要に応じて

《参考図書》

- ・赤林朗：入門・医療倫理 I，勁草書房
- ・塩野寛：生命倫理への招待，南山堂
- ・井上兼生：テーマで読み解く生命倫理，教育出版
- ・斎藤茂男：生命かがやく日のために，講談社+α文庫
- ・樋野興夫：あなたはそこにいるだけで価値ある存在，角川出版

《授業時間外学修》

- 事前学修(20分)：次回の授業範囲に関連した医療，生命に関わる社会の出来事に関する新聞記事やニュースを閲覧し，自分の意見をまとめておく。
- 事後学修(20分)：講義の内容を振り返り，感じたことや考えたことを書いておく。
- ・実務家教員による授業。

《備考》

- ・授業形態は感染状況により変更する場合がある。
- ・講義内容，成績評価の方法などの詳細については，初講のガイダンスで説明する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス/生と死を考える	講義内容のガイダンス 生命倫理とは/生命倫理の歴史
2	倫理原則とは	患者の権利，医療者の責務/職業倫理/倫理原則
3	ホスピス/緩和ケア	アドバンス・ケア・プランニング/リビングウィル/インフォームド・コンセント 緩和ケアの考え方
4	死にゆく人の心理	死にゆく人の心理/がんの告知/死のシミュレーション
5	臨床における倫理①	終末期医療と安楽死
6	事例から生命を考える①	臨死期・看取り/尊厳死とは/グリーフケア
7	臨死期・看取り	病と生きる/がんサバイバー
8	生殖医療から生命を考える	生殖医療の現状とその課題
9	事例から生命を考える②	中絶と胎児の権利/能力
10	生命をめぐる倫理的課題①	遺伝子診断・治療に関する倫理的問題
11	生命をめぐる倫理的課題②	人へのクローン技術応用に関する倫理的問題
12	臨床における倫理②	E S細胞/i P S細胞/再生医療/能力肉体の改造
13	臓器移植から生命を考える①	脳死による臓器移植
14	臓器移植から生命を考える②	生体臓器移植の現状と課題
15	学習内容から生命を考える②/まとめ	「医療者」として生命を考える